

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日） 池知 良昭（****年**月**日）

本籍（外国人の場合国籍） ****

学位（専攻分野） 博士（リハビリテーション学）

学位授与番号 甲第 174 号

学位授与日付 令和4年3月21日

学位授与の要件 学位規程第3条第3項該当

論文題目

終末期がん患者に対する作業療法士の実践自己評価尺度の開発

審査委員会

主査 妹尾 勝利

副査 黒住 千春

副査 井上 桂子

博士論文内容の要旨

本論文は、第1章から第3章で構成されている。

第1章では緩和ケアチーム（Palliative care team：PCT）における作業療法士（Occupational Therapist Registered：OTR）の役割を明らかにするため、がん診療連携拠点病院のPCT代表者とOTR責任者を対象に自記式質問紙調査を実施した。その結果、OTRの役割として、①全人的苦痛に関する評価・支援、②日常生活活動に関すること、③作業活動を通じたQuality of Life（QOL）維持・向上、④家族に対するケア、⑤PCTメンバー間の調整や支援、⑥PCTにおける情報共有やOTRの視点に基づく助言・指導が抽出された。

第2章は、第1章の研究、文献レビュー、専門家会議より終末期がん患者に対するOTRの役割を明確にし、終末期がん患者に対するOTRの実践自己評価尺度（Self-Rating Scale of Occupational Therapists for Terminal Cancer patients：SROT-TC）の各項目の内容的妥当性を検討した予備調査である。結果、77項目が採用された。

第3章は信頼性と妥当性を備えたSROT-TCの開発を目的に行った本調査の報告である。結果、20項目からなる5因子構造が推測された。第1因子は【家族に対するアプローチ】、第2因子は【がん治療に対する支援】、第3因子は【患者の希望・意思の尊重】、第4因子は【他職種との協業】、第5因子は【患者の興味関心へのアプローチ】と命名した。SROT-TCは良好な構造的妥当性、内的一貫性が確保された。しかし、基準関連妥当性は相関を認めたが弱かった。今後、本尺度と作業療法士の作業遂行状況の関連性の検討が課題である。

博士論文審査結果の要旨

終末期がん患者に関わる作業療法士の多くが介入に自信がない、その原因は患者からの要望を聴取しにくい、作業療法の役割が不明瞭などという調査結果を背景にして、本研究は、終末期がん患者に対する作業療法士の役割を明確にすること、さらに患者に負担をかけない評価方法を考案するという新しい取り組みを行った意欲的な研究である。まず、文献研究や専門家会議を行って作業療法士の役割を挙げ、その項目の内容的妥当性を検討するために終末期がん患者に関わっている作業療法士を対象に予備調査を行った。その後、予備調査結果を基に作成し

た評価尺度を使用して調査を行い、構造的妥当性、内的一貫性が確保された評価尺度を完成させた。今後は作業療法士がこの評価尺度を用いて自らの臨床を振り返ることで、患者に負担をかけずに果たすべき役割を認識することができることが期待される。論文は分かりやすく論述されていた。本研究は、今後の臨床現場や教育場面での貢献が期待され、リハビリテーション学の博士論文として十分価値あるものに仕上がっていると判断された。論文内容は、すでに学術雑誌に5編が掲載・受理されており、質は保障されている。審査の結果、本論文は博士論文に十分に値し、合格と判定した。